



University of the Ryukyus Library Bulletin, Vol. 25 No. 3 Sept. 30 1992.

考古学文献と図書館

池田 榮 史

我々の所属する法文学部のビルからは大学の図書館が良く見える。大学構内で言えば、目と鼻の先に位置する関係にあるのだが、私はあまり図書館に出入りしたことがない。

それは何故か？

答えを端的に言うと、私にとって必要な本が図書館にほとんどないからである。

しかし、これは別に本学の図書館を非難する意味があって言っているのではない。むしろ、問題は私の専攻している考古学という学問分野にある。

このところ、世の中はブームと呼ばれるほど、考古学に関する話題に事欠かない状況にあるが、これに比例するように考古学関係の

文献も大量に出版されている。例えば、ここ数年最も注目された佐賀県神埼郡所在吉野ケ里遺跡に関しては、全く時期の異なる邪馬台国との関係を牽強付会したものを中心として、優に二・三十冊を越える本が出版されている。これによって、吉野ケ里遺跡に関する情報は広く一般に知られることとなったが、こと考古学という学問的な立場からすれば、吉野ケ里遺跡に関する正式な発掘調査報告書は未だ出版されていないのである。

これはどういうことかと言うと、日本に止まらず世界各地で行われている遺跡の発掘調査では、その調査成果を必ず報告書という形で出版し、公に発表することになっている。

目次	
考古学文献と図書館	1
【史料紹介】明清資料叢編	3
大学図書館の改革をめぐって	4
本学教官著作寄贈図書案内	5
配架変更のお知らせ	8
沖縄関係図書新着案内	10
図書館事情	15
医学部分館だより	16

しかし、吉野ケ里遺跡の場合、遺跡の重要性が早くマスコミによって報道され、また、多くの人々の関心を集めたために、調査に従事している担当者が正式報告書を作成する前に、それぞれの関心に沿った出版物が先行して氾濫する結果となったのである。

では、このような遺跡調査の正式な発掘報告書は、何時、出版されるかという点、原則的に調査終了後、速やかに出版することとなっている。しかし、一般的にはほとんどの場合、調査資料の整理・検討が充分に行われた後のことが多い。吉野ケ里遺跡の場合もまさにそうで、調査自体がまだ続けられている現在、正式な発掘調査報告書は未だ出版されていない訳である。

ところで、このような発掘調査報告書は基本的に調査を担当した団体が編集・印刷することになっており、余程のことがない限り、出版社や書店を通じて作成・出版・販売されることはない。また、出版部数もこれを管轄する文化庁の方針により、五百部前後と極めて限られている。その上、これらの報告書の頒布に当たっては、まず、調査に関係した団体・個人に配付され、次にその遺跡が所在する県内の市町村教育委員会や他府県単位の教育委員会、さらに全国の研究機関に配付される。とすると、ここまでに出版された発掘報告書の大半は消費されてしまい、とても全国に数百もある大学の図書館までは届かないこととなる。そうになると、これを入手するためには、まずは発掘調査の関係者に名を連ねるか、あるいはために全国の発掘調査現場を訪ねたり、ツテをたどったりして、直接、報告書の入手を図るかのどちらかとなる。

私の手元にもこうして集めた発掘報告書がかなりある。しかしながら、これらの全部が常に自分の研究に必要な訳ではない。むしろ、日常的な教育・研究の上では、各テーマに応じて数十冊単位でこと足りてしまう。したがって、多くはただ置いてあるだけに過ぎないのだが、論文作成などで一旦報告書が必要となった時、他にアテにできる状況がない以上、個人的な収集を続けざるを得ない。この結果、住家のかかなりのスペースを本が占め、

業を煮やした家族からは本を取るか、家族を取るかという究極の選択を迫られることとなるのである。

このような事態に陥っているのは私一人だけではなく、考古学に携わる全国の研究者に共通した悩みである。まして、近年では社会的に考古学の活動が認知されたこともあり、一年間に全国で出版される発掘報告書の総数は五千冊を優に越えるという。こうなると、個人でこれら総てを集め、目を通すことは、もはや不可能である。そこで、各地の考古学関係機関の中に、文献センター的な機能を持つものが現れている。しかし、これらの機関の多くは既存の公立図書館や大学図書館などのネットワークをほとんど持たず、利用に際してはそこまで出向いて必要な図書の有無を確かめるしかなく、結果的に個人収集の図書と同じような活用しかできない。これは考古学関係機関に限ったことではなく、博物館や美術館などの所蔵図書などについても同様である。

これは時間の省力と学問の発達にとって、極めて重大な事態なのだが、今のところ早急に改善される見通しはまるでない。この背景には考古学研究者の怠慢があるのだが、それと同時に考古学研究上の近年の動向も関係している。それは何かと言うと、研究分野の細分化・専門化である。これは他の学術分野にも共通することと思うが、学問全体の情報の氾濫に対して、個人で研究できる範囲は極めて狭くなっており、このためにそれぞれが必要とする資料もごく限定される傾向にあるのである。この結果、研究者個人は研究を進めるに際して、大量の情報の中から自分の研究分野に関係する文献を選び出し、これに通暁すれば、他には目もくれなくても充分に通用することとなる。しかし、この「木を見て森を見ず」といった状態は、どう考えても正常ではない。どの学問分野でも研究分野の細分化は、これと対局にある総合化と一体となって、初めて意味を持つものであり、必然的に両者の対比が必要となることは目に見えている。

さて、こうなると、個人のレベルでは研究

分野の細分化と総合化の双方を見据えて、どのような範囲の文献を収集するか判断と、これをどの様に整理するかの手段を迫られることになる。この内、前者の判断は比較的早く決し易いが、問題は後者の整理である。私自身、図書館の検索カード用紙を用いて、書名と研究分野による分類を試みたこともあったが、既に収集した文献のカードを作成する間に、新たに入手する文献が山積みとなり、ついに断念してしまった。まさに「積ん読」の状態であり、研究分野の専門化・総合化などの謡い文句には及びもつかない。恐らくこうした経験は他の多くの研究者も経験されていることと思われ、個人のレベルでは最終的に自分の記憶が頼りといった状況にならざるを得ないようである。

このような経験からすると、個人ではなく、組織体である大学図書館で、機能の充実や図書館相互のネットワーク化などを標榜することは、さらに言葉で言うほど簡単にできることではないだろうなと思ってしまう。大学を含めて、図書館の機能の役割は時代に応じて変化するのであろうが、帰るところ、これらは中に働く人間と利用する側の熱意によってのみ、進展するものであろう。とすれば、図書館の機能拡大に期待し、これと共に自らの学問に対する責任を全うするためには、私ももっと図書館に考古学関係文献の充実を働きかけてみようかな、と思案している。

(いけだ よしふみ：法文学部助教授・国史学)

【史料紹介】

明清資料叢編

(平成三年度購入大型コレクション)

本史料は、『明清檔案』と『清代起居注册』で構成され、17～20世紀初頭における中国の政治・外交に関する基本文献で、明清時代の政治社会の研究、琉球をはじめとするアジア諸国及びヨーロッパ諸国との国際関係史研究に不可欠の史料である。

特に『明清檔案』は、琉球王府の外交文書『歴代寶案』の欠落部分を補填する文書も含まれており、琉球の中国交流史研究においても重要な史料である。



明清檔案 張偉仁主編

民國七十五～七十八年 (1986～1989)

中央研究院歷史語言研究所影印本
一百九十六冊

内容：明順治元年 (1644) 一月～清乾隆二十三年 (1758) 三月

清代起居注册 清沈兆霖等敕撰

民國七十二～七十六年 (1983～1987)

聯合報文化基金會國學文獻館據國立故宮博物院藏手稿本影印 二百八十冊

内容：道光期 (一百冊) 咸豐期 (五十七冊)
同治期 (四十三冊) 光緒期 (八十冊)

大学図書館の改革をめぐって

及川 三千男

1. はじめに

近年、大学をとりまく環境条件がめまぐるしく変わっている。それに伴って様々な大学改革が試みられるようになってきた。しかしながら大学における教育・研究活動に大きな比重をもつ大学図書館について、その在り方や機能の改革に関する議論が果たしてどれほど行なわれているだろうか。また、大学の教育・研究環境に対する基本的な問題として大学図書館が取り上げられ、その検討の対象となっている例がどれほどあるだろうか。

すでに周知のように、平成3年6月に公布された大学設置基準の大綱化に伴い高等教育機関はこれまでの量的整備の対応から教育・研究の質的充実に取り組むことが強く求められることとなった。とくに大学教育の改善の方向として、特色ある個性的なカリキュラムの編成による柔軟な教育組織の設計が最も重要視されているのである。このことによりそれぞれの大学におけるカリキュラムの編成や授業の方法に至るまでその実践的レベルでの様々な対応が必要となってきたのである。

一方、大学図書館についてはその機能の充実が一層強調されることから、大学改革の中においてどのように位置付けられねばならないのであろうか。今回の大学設置基準の大綱化では図書資料をはじめ多様な情報によって学習の充実をはかるという観点から『教育研究上必要な資料を系統的に整備』するとされており、適切な資料の整備を基礎として大学における教育研究活動に資する図書館サービスを行うことが求められている。このことから大学図書館が実際の教育研究活動に応ずるサービスを提供するためには、図書資料等についての量的な基準を設けることよりも、むしろその内容を吟味する基準に改めることとしたのである。さて、これからの大学図書館に求められる改革とはどのようなものであ

うか。

2. 大学設置基準と大学図書館

新制大学制度の発足当初はその設置認可について大学基準協会決定の『大学基準』（昭和22）によってなされていたが、昭和31年に文部省令として『大学設置基準』が制定され大学設置のための最低の基準が示された。戦後の高等教育機関はその驚異的拡大によって大学の大衆化が進んでいったが、新設大学の中には設置認可の申請時以降においてもなお基準に到達しない大学も存在していたこともあり、基準の低下を招かないようにすることはもとよりその水準の向上を計る努力もまた必要であった。したがって、『大学設置基準』は、大学の設置認可申請のための最低の基準であると同時に、施設整備充実の目安としても運用されてきたのである。その後、何度かの改正を経たが、この基準そのものが、多数の大学に画一的な基準や制約を細部にわたり規制し、また自由で個性的な大学の創造や改革を抑制することにもなるという理由などから大学審議会によってここに大幅な検討が加えられることとなった。そして、長期間にわたる討議を経て、いわゆる根本的見直しによる大綱化となった新しい『大学設置基準』が、平成3年7月から施行されたのである。

一方、大学図書館については、新学制発足直後の昭和27年に『国立大学図書館改善要項』が出されているが、その中で“大学図書館は、教員にとっては研究と調査、学生にとっては学習と教養の場である。従って研究室並びに教室の延長またはその一部としての使命が十分に発揮されるよう整備されるべきである”と表現され、それに続く解説の項をみると、たとえば指定図書や参考事務による学生、研究者、図書館の一体的関係の重要性について説明している。このように大学図書

館が果たすべき役割やあるべき姿を具体的に示した『国立大学図書館改善要項』は、その後のわが国の大学図書館運営における改善指針として大きな影響を及ぼしたのである。しかしながら、省令による基準としては昭和31年に大学設置基準が制定されているが、いわゆる今回の大綱化以前の大学設置規準には大学図書館の果たすべき機能や、それに必要な条件等は一切明示されていなかったといえる。この点では、改正された大学設置規準の第38条において、きわめて重大な大学図書館の本質的役割が明記されているのである。それは、大学図書館の新しい変化に即応した機能内容の強化という観点から“教育研究上必要な”環境整備に努めるとしていることに画期的な意義を見出すのである。即ち、図書館には専門的職員の配置を中心として教育研究上必要な資料を系統的に備えると共に、情報の処理及び提供のシステムを整備し、教育研究を促進するための利用スペースを備えるものとしたのである。

3. 大学教育の改善

平成3年2月に大学審議会は『大学教育の改善について』の答申を行っている。この中で、学生の学習活動への配慮という観点から大学図書館の機能の充実を一層重視される必要があるとしている。しかしながら学生の学習の充実といっても、単に図書資料の量的整備にとどまるものでなく、むしろ、その内容が、いかに実際の学習活動に資しているかが問われるべきものである。その意味において、大学の教育研究上、利活用される資料は従来のような図書等の冊数を示めす規定から学部の種類や規模に応じて必要な図書資料が系統的に収集整備されることとしたのである。

しかし、ここにいう系統的な図書資料の整備というものは、実際にはなかなか難しい問題が存在する。それは、図書資料の選定のメカニズム、つまり、学部別を基本とする図書資料の選定ということが、いかなる機構・組織で可能となるか、また、選定すべき図書資料が専門の見地から系統的ないし体系的であるかどうかを判断する選定方式がどのように

確立されるかということである。そもそも、学生の学習活動に密接に関係する図書資料の選定は個々の教官による選書活動を基本とすべきであるが、これからは、図書館の専門的職員が主題別に協力して教官の授業計画に基づく選書体制が考えられよう。ここで、大学教育の改善ということを図書館サイドから考えた場合、学生の学習活動については、まず何よりも教官の指導によって促進されることが必要である。そして学生はそれぞれの講義科目に必要な図書資料を学習の中で効率よく利用できるようになってはじめて、大学教育の改善の第一歩が実現したといえるだろう。

ここ数年来、“教授法の革新”ということで大学講義の改革が様々な形で議論を呼んでいる。これまで大学図書館では、1960年代後半から1970年代前半にかけていわゆる指定図書制度の運用が試みられた。これは大学の講義に沿って図書資料を必読とする教授法と密接な関わりをもつものであるが、わが国ではうまく根づかなかった。しかし、今回は大学講義の改革という意味合いから出発する教官主導の指定図書制度として実施されることによって、これまでの伝統的な講義形態に多少なりとも変化をもたらし、教官の教育活動の態様に何らかの影響を与えることになれば、“大学教育の実践的レベル”における画期的な一大改革となるといえよう。

今日の大学教育は『大衆高等教育』であるといわれる。大学に入学してくる学生の大部分は、明確な目的意識を持たず、社会からは、大学はレジャーランド化しているといった批判や、“人生最後の長期休暇”といった見方までされている。大学自体のこうした大衆化現象が一方においては、大学制度そのものの構造的な問題にも波及しているのである。従って、わが国の大学改革もアメリカの大学のように、学部は教育機関、大学院は研究機関としてはっきり割り切って、学部の教育課程については、自由で個性的なカリキュラムを設計するとともに、国内外での大学間同志の単位の互換をも含めた大学教育のカリキュラムを抜本的に見直し、もっと国際化を志向した柔軟性のあるものにすることが必要で

あろう。今後、大学教育の自由化競争はますます激しくなることが予想され、このような観点においても、大学が掲げる明確な理念・目的に基づく、自由で多様な大学教育を展開し得るよう改善することが最大の課題なのである。

4. 大学図書館の教育的機能

大学の威信とか名声を決定する重要な要因は、教授陣と図書館の質だとよくいわれる。すぐれた教授陣があり、よく整備された図書館があり、さらに興味のわくカリキュラムを用意している大学こそ多くの優秀な学生をひきつける名門大学といえるのであろう。わが国の場合は、それが偏差値による入試難易度によってその序列が決定的に左右されているのであるが、勿論これが大学の真の姿ではあるまい。

さて、教育研究上必要な資料を備えている大学図書館が、学生の学習活動に対して行う重要な機能として、図書館の利用指導がある。図書館によるこの種のガイダンスは学部レベルの学生には特に必要なものであるが、残念ながらわが国ではあまり普及していない。教育に主眼を置かねばならない『学部教育』こそ、この図書館の利用指導を大学での基礎科目の一つとして位置づけ 授業＝学生＝図書館 の三者一体による教育活動として行うことである。長期間にわたる受験中心の教育を受けてきている大学進学者の大部分は、図書館の利用についての知識は極めて浅い。このような学生には、大学生活の第一歩としてまず図書館の資料を使って学ぶという経験を持たせるということに主眼が置かれなければならない。この場合、学生は図書館で講義シラバスに示された図書資料の効率的な入手とその利活用の技術を習得すると共に、レポート作成に当たっても効率よく資料の探索と収集が行える知識を身に付けることが要求されることとなる。

一方、情報化社会の進展に伴って、多くの情報を適切に選択し、整理し、活用していく能力が要求されている。昭和61年の臨時教育審議会答申では、このことに言及し、情報活

用能力 (Information literacy) という用語で示している。昔は、読み書きソロバンであったものが、今では、読み書き情報リテラシーとも言われるわけである。この読み書き能力をめぐる議論によれば、図書館の利用のためにコンピュータが使えるという知識技術もこうした議論における一つの考え方として出されている。つまり、今日の“情報爆発”は新しい意味での“読み書き能力”を要請しているのである。図書館のカード目録に代わるコンピュータオンラインカタログの普及や、CD-ROMによる様々な情報資料が多数出現するようになって、学生に限らず他の大部分の利用者が、これまでとは異なった図書資料の利用法や検索手段を習得しなければならないようになったのである。

情報化社会にあっては膨大な情報の中から必要な情報を適切に取捨選択し、その内容を要約し整理していく能力の育成こそがなによりも必要である。とくに学生の場合、自分の専門分野でのレポート執筆やその発表のための知識技術を習得することは、知的生産活動のための第一歩である。わが国でもこのような考え方に立って、大学図書館を大学教育の中に実践的に組み入れ『図書情報技術』として正規の授業科目になっている大学が登場している。また、アメリカではすでに大学図書館や公共図書館が一般市民への生涯教育の観点から情報活用の経験をプログラム学習として提供しているのである。このように、これからの大学図書館は学習経験のための一大拠点として情報の収集、探索、提供を行うと共に、学生が学習の充実を計るために最も必要な情報活用能力を容易に獲得できる場所とならなければならないであろう。

5. むすび

大学図書館の機能を拡充するためには、単に設置基準を設定するだけでは解決されない。とくに大学図書館の本質的な役割を大学の教育・研究活動において遂行するためには、施設・設備の側面にとどまらず大学図書館の教育的活動と教官への具体的な援助や図書館の専門的職員の配置といった図書館サービスの

機能面から定める内容を基準とすることが必要である。この点では、大学基準協会による『大学図書館基準』(昭57)や国・公・私『大学図書館改善要項』等をふまえて新しい指針としての要項作成が急がなければならないであろう。

大学教育の観点においては、大学審議会答申の『大学教育の改善について』にあるとおり、教育課程の編成、教授内容・方法やその計画の改善・向上への積極的な取組が求められている。したがって、大学教育の目的と体系性に考慮した学生の主体的学習が促進されるような教育課程が望まれるのである。さらにこのようなことから、教育方法の改善が大学改革の中心的課題であるという認識に立っ

て、大学図書館は今こそ、その機能の改善・改革による大学教育への具体的な協力活動を展開すべき時である。大学の授業において必要な図書資料の体系的学習や各種の情報検索法を含む図書館の利用技術は、学生が習得しなければならない基本的知識技術である。大学教育全体の中にあつて大学図書館は、このような情報活用能力、いいかえれば、“学問の基礎となる能力の訓練”を最も重要視した図書館サービスを展開し、将来に向けた改革を積極的に推進しなければならない。

(おいかわ みちお：附属図書館事務部長)

本学教官著作寄贈図書案内

1992年6月～1992年8月

下地 良男 (法文学部)

中英語・近代英語対照資料／ウィクリフ
欽定訳 (新訳聖書抜粋) 琉球大学法文学
部文学科英文学専攻, 1992 830.2-SH

秋永 孝義、国府田 佳弘 (農学部)

Problems in the Air Shipment of Hroti-
cultural Products (Advances in food
engineering), CRC, 1992 588-AD

照屋 善彦 (法文学部)

アメリカ文明と地域の役割 (琉球大学ア
メリカ研究大会論文集), 1992 253.007-RY

松崎 俊久 (医学部)

長寿世界一は沖縄その秘密は豚肉食だった
ーダイエット食はボケ・早死を招く／松崎
俊久 祥伝社, 1992 K498.38-MA

木村 政昭 (理学部)

沖縄トラフにおける熱水スモーカー・生
物・鉱床の調査と解析／木村政昭 科研費
(一般A) 研究成果報告書, 1992
K452.15-KI

駒ヶ根市成人病疫学調査及び総合保健計画
(委託研究報告書)／松崎俊久 (財)東京
都老人総合研究所疫学部, 1991 493.1-RY

諸見里 善一 (農学部)

Mycological and Phytopathological Studies
on Rhizoctonia Solam Kuhn / 琉球大学農
学部, 1992 615.81-MO

小濱 哲 (短期大学部)

リゾートを核とした石垣の産業の複合化を
めざして／小濱哲 沖縄観光研究会, 1992
K601-KO

田幸 正邦 (農学部)

Viscoelasticity of Biomaterials, American
Chemical Society, 1992 492.8-VI

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

配架変更のお知らせ

◎ 2階、3階一般開架閲覧室の書架が大幅に変わりました。

これまで満杯状態だった書架を緩和するため夏休み期間中の1週間(7月14日~21日)を利用して2階、3階一般開架閲覧室の書架の大幅移動作業を行いました。

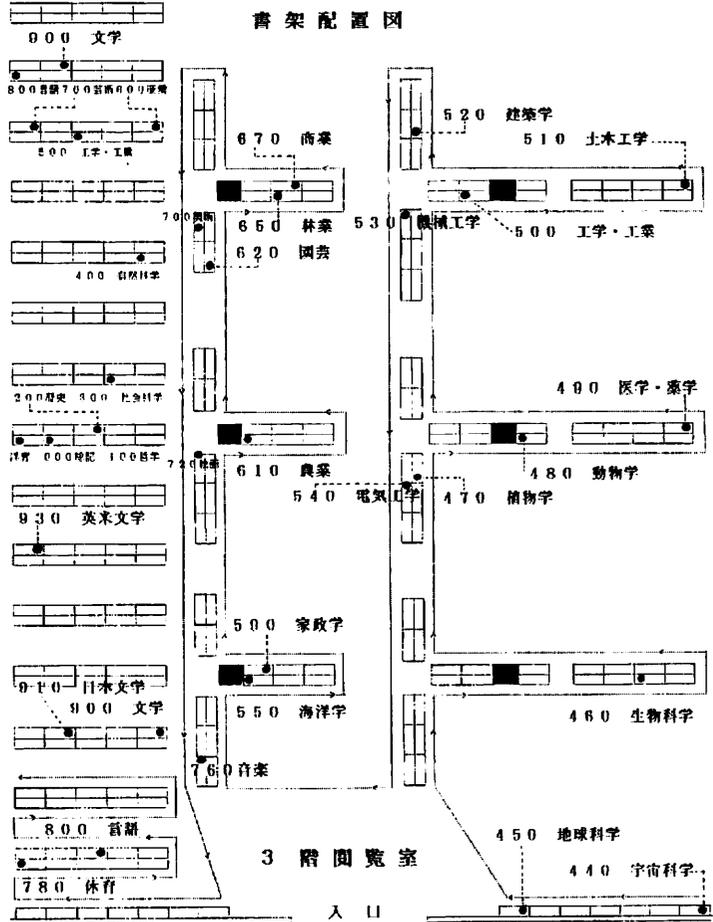
移動後の書架の配置は下記の図のとおりですが、これまでと大きく変わった点は次の通りです。

- (1) 2階にあった分類番号440-479(宇宙科学、地球科学、生物学、植物学)の図書は3階へ
- (2) 3階の9類文学関係の図書のうち全集、叢書、著作集は3階ブラウジングコーナーへ(これらの種類の多くの図書は2階3層書庫に配架していますが、そこも満杯状態のためやむをえずブラウジングコーナーに移動しました。)

- (3) 4類(医学関係)、5類(工業、工学関係)、6類(産業関係)の図書のうち全集、叢書、著作集の多くを2階3層書庫へ

- (4) 洋書のうち940ドイツ文学以降の部門とUMI学位論文集は1階と2階の間の踊り場へそれぞれ移動しました。

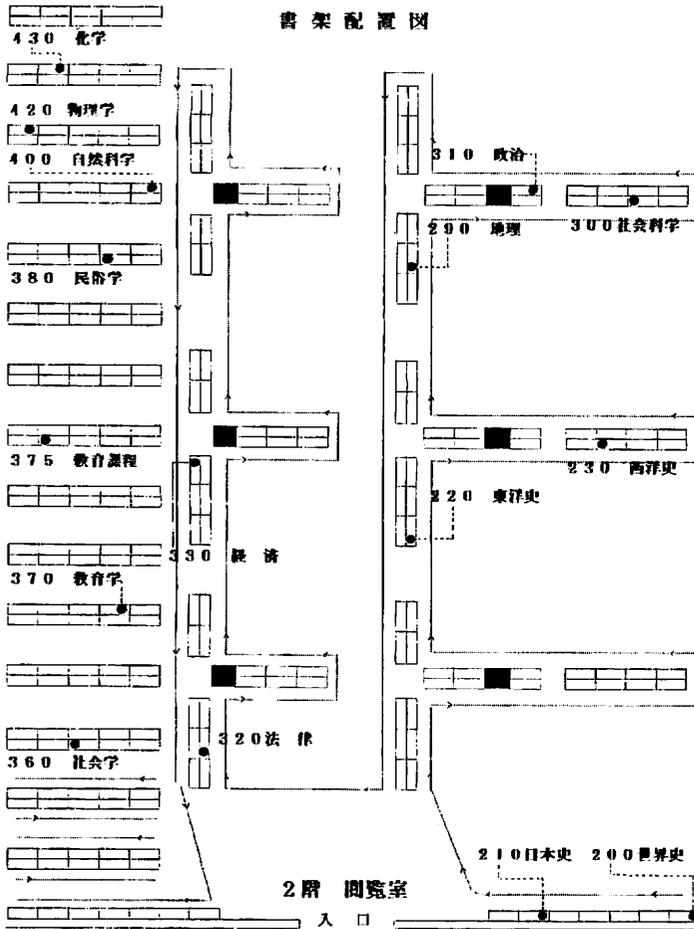
書架配列の流れはこれまでと同じですが、それぞれの書架には見出しを付けてありますので目安にしてください。また書架配置図を、各階閲覧室の出入り口近くの書架の側板にも掲示していますので、図書を検索する際ご利用ください。



この移動作業をした際、分類配列の整頓を行いました。図書は背表紙についている分類番号の3桁番号にしたがって配架しておりますので、取りだした図書は必ず元の場所に返却するなどして、書架を乱さないよう心がけて下さい。書架が乱れますと、目録検索して所蔵していることが、わかっていてもその書架にみつからないということが多くなり、他の利用者に迷惑をかけることになります。

(閲覧係)

書架配置図



◎ 新着雑誌コーナーがタイトルの音順に
(3F雑誌閲覧室)

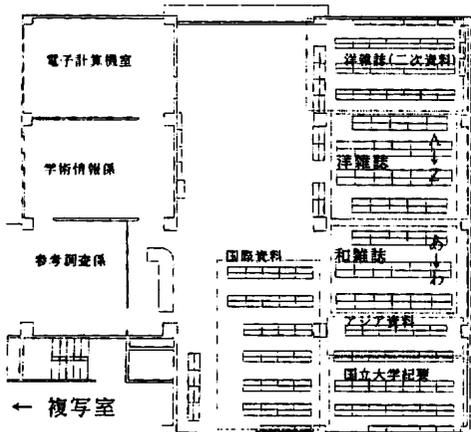
新着雑誌コーナーは、これまで和雑誌（購入、寄贈に区分）、洋雑誌それぞれを主題別に分類し、分類順に配架していましたが、和雑誌はタイトルの五十音順に、洋雑誌はアルファベット順に変更しました。また、この機会に和雑誌の寄贈・購入区分もなくしました。

現在、雑誌閲覧室の入り口に近い側に和雑誌、奥のほうに洋雑誌となり、レファレンスカウンターを背にして雑誌書架に向かったとき、左手からタイトルの音順に並んでいます。雑誌書架の側面にその書架に収納しているタイトルを表にしています。

また、個々の棚には雑誌タイトルと併せて従来通り主題別の請求記号を表示し、表紙イメージがわかるようにしてあります。

バックナンバーを収納している書庫内は、従来通り主題別（請求記号順、ただし4・5類はその大区分の中でタイトル順）となっていますので、書庫内を検索するときは、新着雑誌コーナーの請求記号をガイドとして役立ててください。

(参考調査係)



3階雑誌閲覧室

沖縄関係資料新着案内

1992年6月～1992年8月

1 類 哲 学

1. 聖書集／笹淵友一編著 教文館, 1982
(近代日本キリスト教文学全集; 15)
内容: 路加伝福音書第二四章: 琉球語訳
／ベッテルハイム [訳]
馬太伝福音書第五章: 漢和对訳/
ベッテルハイム [訳]
約翰伝福音書第一章: ヴィーン版
／ベッテルハイム [訳]
193.5-BE

2 類 歴 史

1. 私の小論集／友寄英一郎著 友寄秀子,
1990 200.4-TO
2. 沖縄の歴史と文化／外間守善著 中央公
論社, 1986
(中公新書; 799) 201-H82
3. 海東諸国紀: 朝鮮人の見た中世の日本と
琉球／申叔舟著; 田中健夫訳注 岩波書
店, 1991
(岩波文庫; 33-458-1) 201.4-SH
4. 写真記録人間が人間でなくなる時:
Genocide／大田昌秀著 沖縄タイムス社,
1991 201.7-OT
5. ほうまく: 佐手郷友会結成30周年記念誌
小橋川春造, 1988 211-KO
6. 大兼久誌 1991 211-TA
7. 具志川市史第一巻／具志川市史編さん委
員会編 具志川市役所, 1991
新聞集成明治編 224-GU
8. 久場土地区画整理事業竣工記念誌／久場
土地区画整理事業竣工記念誌編集委員会
編 中城村久場土地区画整理組合, 1991
227-KU
9. 糸満市史資料編12／糸満市史編集委員会
編 糸満市役所, 1991
民俗資料 232-I91
10. 城辺町史第五巻／城辺町史編纂委員会編
城辺町, 1990
民話編 242-GU
11. 牧畜人生八十八年白保に生きる: 宮良松
米寿記念 1990 289-FU
12. 波濤を越えて: 亀谷長栄伝記／福山漢治
著 葦書房, 1986 289-F85
13. スヤーサプロー: 宮城嗣吉物語／船越義
彰著 沖縄タイムス社, 1991 289-FU
14. 琉球におけるジョン万次郎／石田磨柱著
宜野座通男, 1991 289-IS
15. 将軍沖縄に死す: 第三十二軍司令官牛島
満の生涯／小松茂朗著 光人社, 1989
289-KO
16. 土がある明日がある: 桑江朝幸回顧録/
桑江朝幸著 沖縄タイムス社, 1991
289-KU
17. 写真で見る桑江朝幸のあゆみ／桑江朝幸
写真集刊行会編 桑江朝幸写真集刊行会,
1990 289-KU
18. 島と組織に生きた: 前津武追悼集／故前
津武追悼集刊行委員会編 故前津武追悼
集刊行委員会, 1991 289-MA
19. 雑草／森松長光著 [森松長光], 1991
289-MO
20. ジョン万次郎物語=John Mung story /
長田亮一著 ジョン万次郎を語る会,
1991 289-NA
21. かでいんまや万歳／[大舩重盛編] [沖
縄自分史センター], 1991 289-OK
22. 最後の特派員: 沖縄に散った新聞記者/
織井青吾著 筑摩書房, 1991 289-OR
23. 愛ひとすじに: 大山光伝／大山朝常著
改訂版 ニライ社, 1991 289-OY
24. 瀬長亀次郎回想録／瀬長亀次郎著 新日
本出版社, 1991 289-SE
25. でーじな人たち: エピソード沖縄人物図
巻／しいさあ倶楽部編著 ボーダーイン
ク, 1991 289-SH

26. 塩浜康盛追想集 塩浜千代子米寿・塩浜
康盛追想集出版祝賀会, 1988 289-SH 335.91-NI
27. 山河ありて／安田善治著 [安田善治]
1991 289-YA
28. 南島周遊誌／藤沢高治著 晶文社, 1991
290-FU
29. 沖縄地名考：県下の地名、三百四十一の
意味を解く／宮城真治著 沖縄出版,
1992 290.34-MI
30. 地名を歩く／南島地名研究センター編著
ボーダーインク, 1991
(くばのはゆボックス；1) 290.34-NA
31. マップちゃんの沖縄：食べたり買ったり
遊んだり 改訂版 日地出版, 1991
(地図の本マップちゃんシリーズ；29)
290.9-MA
32. ペルリ提督日本遠征記 上巻, 下巻／土
屋喬雄, 玉城肇共譯 復刻版 臨川書店,
1988 290.99-PE
33. 原郷の島々：沖縄南洋移民紀行／三木健
著 ひるぎ社, 1991 297-KI
- 3類 社会科学
1. ピロメラのうた：情報化時代における沖
縄のアイデンティティ／米須興文著 沖
縄タイムス社, 1991
(タイムス選書2；8) 302-KO
2. フィリピン希望への混迷：アキノ政権化
の政治と文化／仲地清著 沖縄アジア研
究所, 1988
昭和62年度沖縄県人材育成財団派遣フィ
リピン大学留学報告書 302-NA
3. 87-91年レポート「沖縄の基地」／
鳥取部邦夫著 ひるぎ社, 1991
(おきなわ文庫；59) 312-TO
4. 糸満市制施行20周年記念誌：年表と写真
に見る合併30年と市制施行20年のあゆみ
／糸満市教育委員会社会教育課文化係編
糸満市役所, 1991 318.3-IT
5. 「企業参謀」沖縄編：日本の経営と決別
せよ！／大城光雄著 光データシステム,
1992 335.02-OS
6. 生産性運動25年史／25周年記念誌編集委
員会 沖縄県生産性本部, 1991
7. 沖縄人の意識構造／東江平之著 沖縄タ
イムス社, 1991
(タイムス選書2；6) 361.6-AG
8. 私が技術一番さん：沖縄手づくりの味／
沖縄県生活改善実行グループ連絡研究会
著 沖縄出版, 1991 365.6-OK
9. 揃(すり)てい行(い)かな：結成三十
周年記念誌／読谷村職員労働組合編 読
谷村職員労働組合, 1991 366.6-YO
10. 一隅を照らす教育／大湾武著 [大湾武],
1986
琉球新報教育活動賞記念自費出版
371.04-OW
11. 沖縄県の教育史／浅野誠著 思文閣出版,
1991 372-AS
12. 沖縄県学童疎開者名簿：宮崎県学事関係
諸令達通牒／那覇市企画部文化局文化振
興課編 那覇市, 1991 376.235-NA
13. 竹富島誌 民話・民俗篇, 歌謡・芸能篇
／上勢頭亨著 法政大学出版局, 1976-
1979 382-U47
14. かごしまの民具：鹿児島民具博物誌／鹿
児島民具学会編 慶友社, 1991 383-KA
15. 沖縄の海人(ウミンチュ)：糸満漁民の
歴史と生活／上田不二夫著 沖縄タイム
ス社, 1991
(タイムス選書2；7) 384.1-UE
16. 神々の古層 3, 8, 9／比嘉康雄著
ニライ社, 1991
3：遊行する祖霊神ウヤガン [宮古島]
8：異界の神ヤガンの来訪ヤガンウユミ
[粟国島]
9：世を漕ぎ寄せるシチ [西表島]
385-KA
17. 蛇の宇宙誌：蛇をめぐる民俗自然誌／小
島環 著 東京美術, 1991 385-KO
18. 九州・沖縄ふるさと大歳時記 角川書店,
1991
(角川版ふるさと大歳時記；7) 385-KY
19. 久高島の祭りと伝承／桜井満編 桜楓社,
1991
(古典と民俗学叢書；15) 385-SA
20. 沖縄の祭と芸能／本田安次著 第一書房,

- 1991
 (南島文化叢書; 13) 385.2-HO
21. おきなわの祭り／沖縄タイムス社編 沖縄タイムス社, 1991 385.2-OK
22. 城辺町の昔話 上, 下: 沖縄県宮古郡城辺町／福田晃 [ほか] 著 同朋舎出版, 1991
 (南島昔話叢書; 7, 8) 388-FU
23. 銃後: 思想弾圧・空襲・原爆・沖縄戦・引揚げ／松谷みよ子著 立風書房, 1987 (現代民話考; 6) 388-MA
24. 久志の民話／名護市史編さん室編 名護市教育委員会, 1991 388-NA
25. わらしべ王子: 沖縄民話／斎藤公子編; 儀間比呂志絵; 木村次郎作詞; 丸山亜季作曲 創風社, 1991 388-SA
26. おきなわの夢: ウンタマギルー物語／高嶺剛絵・文 PARCO出版局, 1991 (Parco lilliputt books) 388-TA
27. 五線譜による沖縄の民謡／普久原恒勇編 増補改訂版 マルフクレコード [発売], 1991 388.9-FU
28. 伊江島のわらべうた 沖縄県保母の会, 1991 388.9-IE
29. 日本民謡大観 (沖縄奄美) 沖縄諸島篇／日本放送協会編 日本放送出版協会, 1991 388.9-NI
30. 日本文化の古層: 列島の地理的位相と民族文化／國分直一著 第一書房, 1992 (New Asia; 4) 389-KO
31. 北の道南の道: 日本文化と海上の道／國分直一著 第一書房, 1992 (New Asia; 5) 389-KO
4. 沖縄の資源探訪／高良鉄夫著 琉球新報, 1991 460.4-TA
5. 沖縄市の自然: 身近な動植物 沖縄市立郷土博物館, 1990 462-OK
6. 南の島の自然観察: 沖縄の身近な生き物と友だちになろう／土屋誠, 宮城康一編 東海大学出版会, 1991 462-TS
7. 日本の重要な植物群落 II 沖縄県版／環境庁編 大蔵省印刷局, 1988 第3回自然環境保全基礎調査 (緑の国勢調査) 特定植物群落調査報告書 (追加調査・追跡調査) 471.7-KA
8. 北琉球の植物／初島住彦著 朝日印刷書籍出版, 1991 472-HA
9. サングの生物学／山里清著 東京大学出版会, 1991 483.36-YA
10. とっておきの話沖縄の川魚: トーイユからリュウキュウアユまで／幸地良仁著 沖縄出版, 1991 487.5-KO
11. ハブに関する研究: ハブの概要と蛇類の捕獲／外間善次著 OHS研究所, 1991 487.94-HO
12. 沖縄鯨物語: ザトウクジラ／案納昭則著 沖縄タイムス社, 1991 489.6-AN
13. ヒトにんげん人: 生活の人間学: 人ともを考える／苗村利康著 [苗村利康], 1991 490.4-NA
14. 奄美の心: 明日の離島医療の発展をめざして／笠畑保著 笠畑保, 1991 498-KA

5類 工 学

1. 沖縄市水道三十年史／沖縄市水道部編 沖縄市水道部, 1988 519.1-OK

4類 自然科学

1. 石垣島のサンゴ礁環境／目崎茂和編 世界自然保護基金日本委員会, 1991 452.16-ME
2. 沖縄海は泣いている: 「赤土汚染」とサンゴの海／吉嶺全二著 高文研, 1991 452.16-YO
3. 鹿児島県の地質／鹿児島県地質図編集委員会編 鹿児島県企画部企画調整課, 1990 455.9-KA

6類 産 業

2. 沖縄県農林水産行政史 第八・九巻／沖縄県農林水産行政史編集委員会編 農林統計協会, 1990 612-O52
3. 平良市の老木・巨木: Nature and human history 平良市民運動実践協議会, 1991 652.7-HI
4. 九州・沖縄巨樹名木巡り／牧野和春編著

- 牧野出版, 1991 652.7-MA
 5. リゾート開発への警鐘／ゴルフ場問題全
 国連絡会編 リサイクル文化社, 1990
 654-GO
 6. 「ハッピーアイランド」の本／多喜ひろ
 み編 ボーダーインク, 1991 699.6-TA

7類 芸 術

1. 芸能の島・八重山／宮川寛雄編 沖縄・
 八重山芸能後援会, 1958 703-Mi76
 2. 海上の道：沖縄の歴史と文化：復帰20周
 年記念特別展／東京国立博物館編 読売
 新聞社, 1992
 展観目録
 会期・会場：平成4年1月7日～2月
 16日・東京国立博物館
 709-TO
 3. 浦添市文化財悉皆調査報告書 浦添市教
 育委員会, 1990
 (浦添市文化財調査報告書；第17集)
 709.2-UR
 4. 琉舞：石田和歌画集／石田和歌著 講談
 社, 1991 721.9-IS
 5. マンタの海：人と自然のカラーアルバム
 ／笠井雅夫写真 くもん出版, 1991
 748-KA
 6. 沖縄の伝統工芸をささえる人達：森幸次
 郎写真集／森幸次郎著 [森幸次郎],
 1986 748-MO
 7. 紅型(びんがた)・霊位(ち(せ)ち)
 の契り：技と美の系譜／岡村吉右衛門著
 吾八書房, 1991 753-OK
 8. 宮良長包作曲集 琉球新報社, 1991
 楽譜監修：譜久村エミ 760.7-MI
 9. 新もどろ見ゆ／岡田輝雄著 新報出版,
 1991 766.9-OK
 10. 宮城美能留炎の舞踊家／岡田輝雄著 新
 報出版, 1991 766.9-OK
 11. 球音よ、心に響け！！：あの「北城ろう
 学校から10年：高校野球監督炎の日記／
 大庭猛義著 フットワーク出版, 1991
 783.7-OB
 12. 廃校の夏：難聴児たちの甲子園／小野卓
 司著 講談社, 1991

- (講談社文庫) 783.7-ON
 13. 魚と釣りの百科：Fisher's paradise
 Okinawa／伊佐次郎, 新垣柴太郎著 新
 星図書出版, 1991 787.1-IS
 14. 空手道 創造, 1977 789.2-KA
 15. 正伝沖縄剛柔流空手道技法／甲斐国征著
 [甲斐国征], 1987 789.2-KA
 16. 空手道大観／仲宗根源和編；宮城篤正解
 題 緑林堂書店, 1991
 東京圖書1938年刊の復刻版 789.2-NA
 17. 空手の心／渡口政吉著 角川書店, 1986
 789.2-TO
 18. 空手道教本(Ⅰ)／渡口政吉著 沖縄空
 手道剛柔流尚礼館本部, 1990 789.2-TO
 19. 空手道の基本：空手武術の概念と実習／
 友寄隆一郎著 関西大学出版部, 1991
 789.2-TO

8類 言 語

1. Conversação em Japonês = Conversa-
 ción en Japonés／りゅうぎん国際化振
 興財団編 りゅうぎん国際化振興財団,
 1991
 日本語タイトル：日本語会話本：ポルト
 ガル スペイン両国語版 890-RY

9類 文 学

1. 文学私註 脈発行所, 1991
 (比嘉加津夫文庫；19) 900-HI
 2. 南島文学発生源論／谷川健一著 思想社,
 1991 900-TA
 3. 同人誌の時代 脈発行所, 1991
 (比嘉加津夫文庫；20) 902-HI
 4. 平敷屋朝敏 上, 下 脈発行所, 1991
 (比嘉加津夫文庫；16, 17) 902-HI
 5. 島尾敏雄の原世界 脈発行所, 1991
 (比嘉加津夫文庫；13) 902-HI
 6. 玉城朝薫・平敷屋朝敏ノート 脈発行所,
 1991
 (比嘉加津夫文庫；18) 902-HI
 7. 「おもろ」風俗考／崎間敏勝著 琉球文
 化歴史研究所, 1991
 (シリーズ「琉球の文化と歴史の考察」
 ；第10号) 911-SA

8. 「おもろ」の思想／崎間敏勝著 琉球文化歴史研究所, 1991
(シリーズ「琉球の文化と歴史の考察」; 第2集) 911-SA
9. おもろさうしの国語学的研究／高橋俊三著 武蔵野書院, 1991 911-TA
10. 南島歌謡論／玉城政美著 砂子屋書房, 1991
(弧琉球叢書; 1) 914-TA
11. 雨の裸燈：勝連敏男歌集／勝連敏男著 沢 安雄, 1991 915-KA
12. 国吉茂子歌集：穂あかり／国吉茂子著 近代文藝社, 1991
(日本全国女流歌人叢書; 第157集) 915-KU
13. 歌集花風 (はなふう)／宮城フミ著 新報出版, 1988 915-MI
14. 夏草／親泊文子著 六法出版社, 1991 915-OY
15. からくれなゐ：平良好児歌集／平良好児著 麻姑山書房, 1991
(平良好児歌集; 第6) 915-TA
16. 當銘芳郎集：夏の夕／當銘芳郎著 日本図書刊行会, 1991
(1991平成歌人集; 第1集) 915-TO
17. 青春の挽歌：野畑耕句集／野畑耕著 脈発行所, 1991
(沖縄現代俳句文庫; 9) 916-NO
18. 鷹柱 (たかばしら)：第三合同句集／沖縄俳句研究会編 沖縄俳句研究会, 1991 916-OK
19. へその城も：作元凡句集／作元凡著 脈発行所, 1992
(沖縄現代俳句文庫; 5) 916-SA
20. 天秤座のブルース：夜基津吐虫句集／夜基津吐虫著 脈発行所, 1991
(沖縄現代俳句文庫; 8) 916-YO
21. 詩集アジアの少女 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 3) 917-HI
22. 詩集ゴッホの伝記 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 1) 917-HI
23. 詩集一角獣の塔 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 4) 917-HI
24. 詩集人形の家 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 6) 917-HI
25. 詩集溶ける風 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 2) 917-HI
26. 呪文の島：影島雅光詩集／影島雅光著 土曜美術社, 1991 917-KA
27. 一房の果実／勝連敏男著 磁場, 1991
(1960年代初期断録; 1) 917-KA
28. 大城貞俊詩集 脈発行所, 1991
(沖縄現代詩文庫; 8) 917-OS
29. 進貢船物語：ある船頭の一生／赤嶺誠紀著 筑摩書房, 1991 930-AK
30. 走る馬 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 9) 930-HI
31. 朔太郎の夢 脈発行所, 1992
(比嘉加津夫文庫; 7) 930-HI
32. 葬儀 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 10) 930-HI
33. ハブの子タラー／謝名元慶福作; 田代ひろや絵 さきたま出版会, 1991 930-JY
34. トロピカル殺人in沖縄／難波利三著 中央公論社, 1986
(C Novels) 930-NA
35. サザンスコール 上, 下／高樹のぶ子著 日本経済新聞社, 1991 930-TA
36. Shiro in love : a true story / by Wendy Tokuda and Richard Hall ; ill. by Karen Okasaki Sasaki.-- Heian International, 1989 930-TO
37. 沖縄・神戸もめぐと船旅 (クルーズ) : 書下ろしトラベルミステリー／辻真先著 扶桑社, 1990
(Fusosha novels) 930-TS
38. 桂林人 脈発行所, 1991
(比嘉加津夫文庫; 11) 940-HI
39. 惜春譜／金城芳子著 ニライ社, 1991 940-KI
40. もぎたて：随筆集／中里加奈枝著 [若夏社], 1991 940-NA
41. 女ともだち 続／徳田 滄 [ほか] 著 わらしべ書房, 1991 940-TO
42. わが囚われの記：第二次大戦と中南米移民／天野芳太郎著 中央公論社, 1983
(中公文庫) 950-AM
43. 華の賦：故陸軍中尉兄分部登一を偲ぶ／松

- 山和子著 [中日新聞本社], [1988] 950-HI
44. ぬちどうたから：木の上でくらしした二年
間／真鍋和子作；渡辺皓司絵 汐文社、
1991 950-MA
(シリーズ平和の風；2)
45. 夢も結ばず：旧日本兵の沖縄線記より／
長尾正典編著 [長尾正典], 1990 950-NA
46. ひめゆりの少女たち／那須田稔著 偕成
社, 1977 950-N56
(偕成社文庫；2043)
47. 日本の原爆記録 15／家永三郎 [ほか]
編 日本図書センター, 1991
内容：原爆孤老／原爆孤老刊行委員会
沖縄の被爆者：癒やされぬ36年の
日々／福地曠昭 950-NI
48. わだつみは蒼く澄みたり：特攻と散華／
世界日報社会部著 泰流社, c1985 950-SE
49. 生き残る：沖縄・チビチリガマの戦争／
下嶋哲朗著 品文社, 1991 950-SH
50. あやしい探検隊海で笑う／椎名誠, 中村
征夫著 情報センター出版局, 1988 950-SH
51. 泥と炎の沖縄線／E. B. スレッジ著；
外間正四郎訳 琉球新報社, 1991 950-SL
52. 漂流者たちの楽園／横田一著 朝日新聞
社, 1991 950-YO

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。



図書館事情

[会 議]

◎ 図書館運営委員会

第196回 平成4年7月13日 (月) 15時10分～16時30分

協議事項

- (1) 図書館における自己点検・評価について
- (2) 琉球大学附属図書館自己点検・評価委員会規程の制定について

報告事項

- (1) 第39回国立大学図書館協議会総会について
- (2) 書庫の整理作業について
- (3) マイクロリーダープリンターの配備について
- (5) その他

医学部分館だより

◎ 第40回九州地区医学図書館協議会

総会について

平成4年8月28日(金)、長崎大学附属図書館医学部分館が当番館になり、九州地区の国・公・私立15大学の医学系図書館の館長以下34名の館員が参加して開催された。

今回の総会は、協議題審議に換え、第40回を記念して、「これからの医学系図書館の運営と課題」でシンポジウムを実施することになった。シンポジストの福岡大学と久留米大学の館長がそれぞれ自館の現状と将来計画について発表があり、これをふまえながら活発な意見や論議が交わされた。この問題については過去の総会議題でも何回かとりあげられてきた。例えば「研究社が望む将来の医学図書館像」(第37回)、「研究者が望む医学図書館の在り方及び図書館員の資質」(第38回)、「医学図書館の使命と役割～国際下の中で～」 「医学図書館員教育の在り方」(第39回)。

このことについては、それぞれの図書館で独自に検討し、改善等にとりくんでいるところであるが、課題が大きすぎるので、今後も引き続き検討されるべき問題であろう。

今回の場合も結局は図書館員の自己評価・自己点検の問題にゆきつくことになり、自館の問題点を洗いなおして、次回にあらためて協議することになった。

その他の報告事項：1. 第63回日本医学図書館協議会総会について、2. 第3回九州地区医学図書館員セミナーについて、3. 司書会議検討事項について、1)会友の推薦基準等について、2)来年度地区セミナー担当館について、3)日本医学図書館協会重複雑誌交換業務の担当順について。なお、次期当番館は九州歯科大学に決まった。

◎ ハワイ在住の山内医師からマイクロフィルムの寄贈

ハワイ在住のYamauchi Shouei 医師から17～8世紀の資料を納めた貴重なマイクロフィルム7巻の寄贈があった。山内医師は戦後、疲弊していた沖縄医療界に物心両面から多大な貢献をした方として知られている。

これらのマイクロフィルムは去る6月、医療法人中頭病院院長大山朝弘氏に託され、大澤炯本学医学部長を通して医学部分館に寄贈された。創設間もない当館は医学史に関する資料が極度に少ないので、寄贈された資料は貴重なものである。

なお、現在医学部分館にはマイクロフィルムリーダー機が設置されていないので、ご利用の際は中央館に行ってくださいとなります。貸出手続きはカウンターで行っております。

Reel 1: James Henry;Lynphatic System; Glandular Disease, 1784

Reel 2: Walter Carleton;Three Anatomic Lectures, 1683

Reel 3: Adenography.

Reel 4: Hippocratis Aphorismi and other 5 articles, 1601～1689

Reel 5: Gustaf Retzius;Finska Krainer, 1878

Reel 6: ①Jian Pecquet; New Anatomical Exp.. ②Thomas Bartholin; Anatomical History, 1651

Reel 7: Thomas Bartholin;Vasa Lymphaticus and other 3 articles, 1653～1658

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第25巻 第3号 [通巻第96号]

平成4年9月30日 発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話 098 (895) 2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会